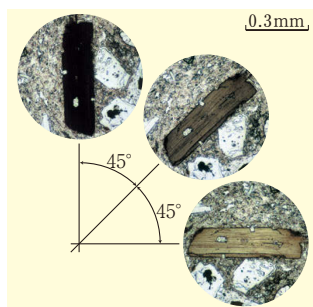


- ⑥ 有色鉱物については、載物台を回転させて多色性の有無を確認する。多色性とは、角度によって鉱物の色や濃淡が変化する現象で、黒雲母や角閃石で顕著である。

## 実験2 直交ニコルでの観察：干渉色や消光を観察する

- ① 鏡筒の中間に偏光板を入れる(直交ニコル)。無色鉱物は直交ニコルで観察したほうがわかりやすい。
- ② 載物台を回転させて、鉱物の干渉色、形、岩石の組織などを調べる。直交ニコルで観察される鉱物の色は干渉色で、鉱物本来の色ではない。載物台を回転させると干渉色は変化する。
- ③ 次のような項目も調べる。
  - ・劈開…鉱物に特有な割れ目やすじ。黒雲母、角閃石、輝石、方解石などは特有な方向性をもつ。
  - ・消光…顕微鏡のステージを1回転させると鉱物は4回暗くなる。これを消光という。消光した位置で、開放ニコルで鉱物の劈開と顕微鏡の十字線を見て、一致したときは直消光、それ以外の場合は斜消光という。鉱物を鑑定するときに使う。



▲図 ii 多色性(黒雲母)

## ▼表 i 干渉色

真っ黒	ざくろ石は結晶の原子の並び方により真っ黒に見える 火山ガラスなどのように結晶していないものも真っ黒に見える
白～灰色	色が白黒テレビのように、白～灰色～黒のように変化する (石英やカリ長石、斜長石など)
赤・黄・青 など	色がカラーテレビのように鮮やかに変化する (かんらん石、輝石、角閃石、黒雲母のような有色鉱物。無色鉱物でも方解石は鮮やかな色である)

**スケッチ** 色鉛筆を使用してスケッチする。結晶の細かい岩石は拡大して描くといよい。

## ▼花こう岩のスケッチ(例)



## ▼安山岩のスケッチ(例)

